

田無第三中学校周辺エリア構想 ～学校を核としたまちづくり～

目次

1. はじめに

「学校を核としたまちづくり」の背景や基本的な考え方を紹介し、田無第三中学校周辺エリア構想(以下、「三中エリア構想」とする。)の出発点を示します。

2. 構想の主旨

学校が「地域のキーステーション」であるとの認識のもと、「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるまちづくり」の仕組みを構築するという三中エリア構想の主旨を示します。

3. 三中エリア構想の主な視点

行政サービスの展開、公共施設の再編、学校施設の活用という3つの柱から、地域特性に応じた三中エリア構想の視点を整理する。

4. 構想の位置付け

総合計画や都市計画マスタープランなどの上位計画との整合性を図りながら、地域単位でのまちづくり施策としての三中エリア構想の役割を示します。

5. 対象エリア

田無第三中学校を中心とした半径 1,200m の範囲を対象とし、土地利用の違いに応じたゾーン分けによって、三中エリア構想の検討を行う核エリアを示します。

6. 地域の現状と課題

懇談会での意見をもとに、地域の現状と課題を分類・整理し、まちづくりにおける重点的な検討項目を示します。

7. 三中エリア構想の将来像

地域の将来像として、三中エリア構想のコンセプトを「集い、つながり、育つ、心と体が豊かになる、みどりの杜“西原リビング”」と示します。

8. 有効的な土地活用

田無第三中学校への機能集約によって生じる公共用地の空きに対し、地域に資する活用方針と学校施設の新たな役割を整理します。